

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

## 「コンパクトライフ」のシンポジウム

先月、「いま五〇代からの大人世代が将来どう暮らしていくのか」というシンポジウムに出演した。

開催時間は三時間で、メンバーは建築家・暮らし研究者・インテリアデザイナー・ソーシャルクリエーター、そしてリフォーム部門で私が壇上になることになった。立場の違う方々と、「コンパクトで快適な住まいと暮らし」についてディスカッションするのだが、通常のシンポジウムとは様子が違っていた。

まず事前の顔合わせは無く、前日まで海外におられた進行役（ファシリテーター）の方をはじめ、当日初めて会う方ばかりと控室で挨拶だけして、すぐに壇上へ。どなたかの基調講演の後というわけでもなく、それぞれが一五分ずつ思いを話したあとは、ぶっつけ本番のディスカッションだ。話すタイミングも、聞かれることもその場で決まる。なかなかスリリングな思いをしながら壇上で過ごしていた。

「シェアというコンパクトを生み出す知恵も社会に広がりつつある」と言う方



がいると思ったら、「シェアは嫌いなんですよね」と言う方もいる。ご自身の本音のトークも飛び出して、そこにいることが楽しくなっていた。参加費を払って来場した二〇〇名の方々も、それぞれの思いとともに聞いてくださっていたのだろう。建築では作り込み過ぎの物件はつまらないということがあがるが、シンポジウムも同様かもしれないなあと感じた。

時々シンポジウムに参加するが、進行役の呼称が「モデレーター」となっているケースが多い。今回はファシリテーターとなっていたので、いい機会なのでその意味を調べてみた。

ファシリテーターは、会議やミーティングなど複数の人が集う場において、議事進行を務める人のこと。中立な立場を守り、参加者の心の動きや状況を見ながら、プログラムを進行していく人のようだ。

確かに議論をスムーズに調整しながらみんなの意見を引き出し、相互の理解を深めるところまで持っていくなかなかの進行役ぶりだった。

作り込みもつまらないが、ディテールのない建物も価値を生まないように、きつとファシリテーターの方は事前リサーチが済んでいるの登場なのだろう。

今回のテーマは、リフォームにおいては数年前に出版した『減築リフォームでゆうゆう快適生活』Ⅱ写真Ⅱの本の内容とマッチしていた。本のなかでも書いていたが、コンパクトをテーマとしたリフォームならではの言葉に「減築」があり、これは大人世代の要望を考えた上での家づくりの一つだと思っている。

ライフスタイルや家族構成が変わってきた五〇代以降にとって、身の丈に合った、身軽な家づくりが求められるのは当然のことだ。大人世代にとって日々自分が把握できるわが家が暮らすことが、快適生活への近道ではないだろうか。



西田恭子氏のプロフィールⅡ一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。日本建築家協会正会員。